

# KONTAKT 5

追加・補足マニュアル



この説明書に含まれる情報は、予期せぬ変更を含み、Native Instruments GmbH の側で責任を代理するものではありません。この説明書によって記述されるソフトウェアはライセンス同意を必要とし、他の媒介に複製してはなりません。Native Instruments GmbH が事前に書面で許可しない限り、どのような目的においても、この出版物のいかなる部分も複製、複写、またはその他の方法での伝達や記録することは許されません。全ての製品・会社名は各所持者の登録商標です。加えて、これを読む人は、このソフトを正規に購入したものであるとします。お客様のおかげで私達はより良いツールを製作していくことが可能になるので、ここに謝辞を惜しむものではありません。

“Native Instruments”, “NI” and associated logos are (registered) trademarks of Native Instruments GmbH.

Mac, Mac OS, GarageBand, Logic, iTunes and iPod are registered trademarks of Apple Inc., registered in the U.S. and other countries.

Windows, Windows Vista and DirectSound are registered trademarks of Microsoft Corporation in the United States and/or other countries.

VST and Cubase are registered trademarks of Steinberg Media Technologies GmbH. ASIO is a trademark of Steinberg Media Technologies GmbH.

RTAS and Pro Tools are registered trademarks of Avid Technology, Inc., or its subsidiaries or divisions.

All other trade marks are the property of their respective owners and use of them does not imply any affiliation with or endorsement by them.

著作・校正: Adam Hanley, Dinos Vallianatos, Gero Baier

マニュアル翻訳: Akira Inagawa

ソフトウェアバージョン: 5.4.1 (09/2014)

製品の向上とバグ報告に関ったベータテスト参加者に特別な感謝をささげます。

---

**NATIVE INSTRUMENTS GmbH**

Schlesische Str. 29-30 29-30

D-10997 Berlin

Germany

[www.native-instruments.de](http://www.native-instruments.de)

**NATIVE INSTRUMENTS North America, Inc.**

6725 Sunset Boulevard

5th Floor

Los Angeles, CA 90028

USA

[www.native-instruments.com](http://www.native-instruments.com)

**NATIVE INSTRUMENTS K.K.**

YO Building 3F

Jingumae 6-7-15, Shibuya-ku,

Tokyo 150-0001

日本

[www.native-instruments.co.jp](http://www.native-instruments.co.jp)

**NATIVE INSTRUMENTS UK Limited**

18 Phipp Street

London EC2A 4NU

UK

[www.native-instruments.com](http://www.native-instruments.com)



© NATIVE INSTRUMENTS GmbH, 2014. All rights reserved.

---

---

# 目次

<b>1</b>	<b>概要 .....</b>	<b>6</b>
1.1	KONTAKT 5.4.1 の各新機能 .....	6
1.2	KONTAKT 5.3 の各新機能 .....	6
1.3	KONTAKT 5.2 の各新機能 .....	6
1.4	KONTAKT 5.1 の各新機能 .....	6
1.5	KONTAKT 5.0.2 の各新機能 .....	6
<b>2</b>	<b>KONTAKT 5.4.1 の各新機能について .....</b>	<b>7</b>
2.1	KOMLETE KONTROL との統合 .....	7
2.2	KONTAKT スナップショット .....	7
2.2.1	ユーザースナップショットの保存 .....	8
2.2.2	スナップショットメニューからスナップショットをロードする .....	9
2.2.3	ファイルシステムからスナップショットをロードする .....	11
2.2.4	ユーザースナップショットの削除 .....	12
<b>3</b>	<b>KONTAKT 5.3 の各新機能について .....</b>	<b>14</b>
3.1	Avid Audio eXtension (AAX Native 64 Bit) サポート .....	14
3.2	詳細 MASCHINE 2.0 統合 .....	14
3.3	新規エフェクト .....	15
<b>4</b>	<b>KONTAKT 5.2 の各新機能について .....</b>	<b>17</b>
4.1	Feedback Compressor .....	17
<b>5</b>	<b>KONTAKT 5.1 の各新機能について .....</b>	<b>20</b>
5.1	古いホストプロジェクトのアップデート (プラグインの移行) .....	20
5.2	Jump エフェクト .....	20

---

5.3	その他の追加内容と向上点 .....	22
5.3.1	Twang エフェクト内のパラメーターの名称変更 .....	22
5.3.2	データベースの変更 .....	23
<b>6</b>	<b>KONTAKT 5.0.2 の各新機能について .....</b>	<b>24</b>
6.1	KONTAKT 内でのライブラリの起動 .....	24
6.2	拡張した Group レベルコントロール .....	27
6.2.1	カスタム可能な Pre/Post Amp FX スロット .....	27
6.2.2	新規アンプリファァーコントロール .....	28
6.3	Time Machine Pro .....	29
6.3.1	パフォーマンスの向上 .....	29
6.3.2	インターフェイスの向上 .....	29
6.3.3	Voice Handling Controls .....	30

# 1 概要

KONTAKT 5 追加マニュアルへようこそ! この資料では KONTAKT 5 リファレンスマニュアルでは記載していない新規の更新内容を紹介します。この追加資料では KONTAKT 5.0.2 と 5.1、5.2、5.3、5.4 アップデートに関する更新内容を記載しています。

## 1.1 KONTAKT 5.4.1 の各新機能

- [↑ 2.1, COMPLETE KONTROL との統合](#)
- [↑ 2.2, KONTAKT スナップショット](#)

## 1.2 KONTAKT 5.3 の各新機能

- [↑ 3.1, Avid Audio eXtension \(AAX Native 64 Bit\) サポート](#)
- [↑ 3.2, 詳細 MASCHINE 2.0 統合](#)
- [↑ 3.3, 新規エフェクト](#)

## 1.3 KONTAKT 5.2 の各新機能

- [↑ 4.1, Feedback Compressor](#)

## 1.4 KONTAKT 5.1 の各新機能

- [↑ 5.1, 古いホストプロジェクトのアップデート \(プラグインの移行\)](#)
- [↑ 5.2, Jump エフェクト](#)
- [↑ 5.3, その他の追加内容と向上点](#)

## 1.5 KONTAKT 5.0.2 の各新機能

- [↑ 6.1, KONTAKT 内でのライブラリの起動](#)
- [↑ 6.2, 拡張した Group レベルコントロール](#)
- Time Machine Pro 機能の向上
  - [↑ 6.3.1, パフォーマンスの向上](#)
  - [↑ 6.3.2, インターフェイスの向上](#)
  - [↑ 6.3.3, Voice Handling Controls](#)
- ファイルインポート機能の向上

## 2 KONTAKT 5.4.1 の各新機能について

### 2.1 COMPLETE KONTROL との統合

KOMLETE KONTROL は新規ソフトウェア製品で、KOMLETE ラインの全インストゥルメントサウンドのブラウズとロードを可能にします。

この製品は KOMLETE KONTROL S ライン MIDI キーボードと連動し、KOMLETE インストゥルメントのパラメーターをマッピングによりロータリーノブで操作でき、ディスプレイではそれらの名称と値を表示、鍵盤ではキースイッチと演奏レンジを表示します。KONTAKT 5.4.1 はこれらの機能を使用するために必要なバージョンです。KOMLETE KONTROL の詳細は KOMLETE KONTROL の資料を参照してください。

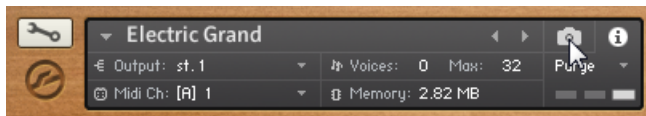
### 2.2 KONTAKT スナップショット

KONTAKT 5.4.1 アップデートの一部としてスナップショット機能を採用、KONTAKT インストゥルメントの書くバリエーションを簡単に保存、再現することができるようになりました。例えば NI Abbey Road Drummer 製品では各ドラムコンポーネントごとに別途チャンネルを用意したミキサーを装備、また Solid G-EQ、Solid Bus Comp、Transient Master を装備しています。これらの装備を用いて KONTAKT のスナップショット機能を活用、同じインストゥルメントから様々なミックス処理を施した音声を用意することができます。これらのファイルの拡張子は .nksn で、次のプロジェクトでの活用、またはコンピューターを介してこれらのスナップショットをシェアすることもできます。同じ KONTAKT ライブラリを使用しているほかのユーザーとこれらのファイルをシェアすることも可能です。



KONTAKT ファクトリーライブラリにはスナップショットはありませんので、以下の解説を進めるにはまずスナップショットを保存する必要があります。

インストゥルメントヘッダのカメラアイコンを介してスナップショットにアクセスしてください。i アイコンをクリックすることで **Input / Output** 設定オプションを Info View に切り替えることが可能です。

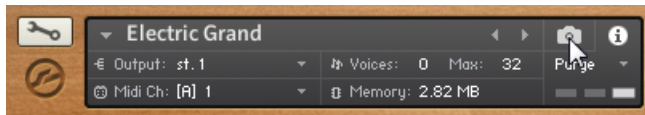


Snapshot ビューにアクセスします。

## 2.2.1 ユーザースナップショットの保存

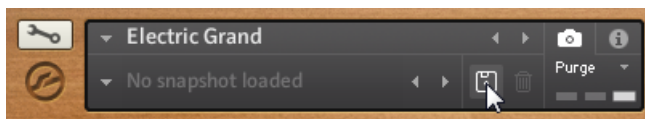
まず自身のスナップショットを作成することで一連の流れを把握してみましょう。 Factory Library Instrument をロードし、各パラメーターを編集します。デフォルト状態とは異なるサウンドに仕上がったら、スナップショットとして保存してみましょう。

1. **Libraries** タブで KONTAKT Factory Library / Vintage / Digital Machines をブラウズし、「Electric Grand.nk」インストゥルメントをロードします。 まずは MIDI 鍵盤で演奏し、Electric Grand のサウンドがどんなものか、確かめてください。
2. Master FX の **Instrument** タブで、左の対応するラベルがある部分のスイッチをクリックし、**Rotator** を起動します。 Rotator セクションのパラメーターはそのままにしておいてください。
3. **Inst Controls** セクションで **Bits** ノブを 12 時の方向に設定します。 サウンドがどのように変化するか確かめてください。
4. ではこのサウンドをスナップショットとして保存しましょう。
5. Instrument Header のカメラアイコンをクリックします。 これでヘッダが Snapshot View に切り替わります。



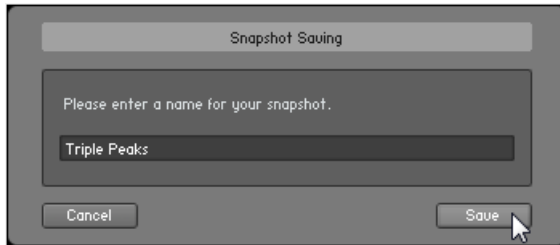
Snapshot View にアクセスします。

6. ここでフロッピーディスクアイコンをクリックしてスナップショット保存用ダイアログを表示します。



スナップショットを保存します。

7. スナップショットの名称（ここでは Triple Peaks とします）を入力し、**Save** をクリックします。



Snapshot Saving ダイアログです。

→ スナップショットが保存され、スナップショットメニューに追加されます。

全ユーザースナップショットは自動的にデフォルトユーザーコンテンツフォルダーに保存されます。  
KONTAKT Factory Library スナップショットは全てここに保存されます。

- **Mac OS X:** *Macintosh HD/Users/Your Name/Documents/Native Instruments/User Content/Kontakt Factory Library/Electric Grand/Triple Peaks.nksn*
- **Windows:** *C:\Users\Your Name\My Documents\Native Instruments\User Content\Kontakt Factory Library\Electric Grand\ Triple Peaks.nksn*



各スナップショットファイルをコピーすることで、これらのスナップショットを他のコンピューターに転送することができます。



自身の Documents / My Documents フォルダの定期的なバックアップを心がけてください。

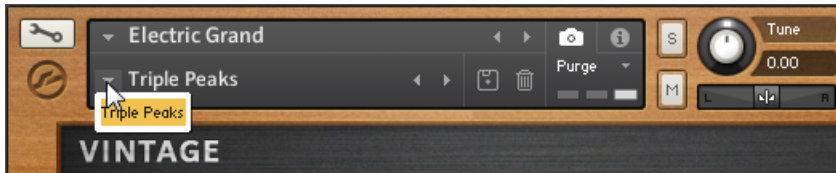
## 2.2.2 スナップショットメニューからスナップショットをロードする

Instrument Header の新規スナップショットメニューからスナップショットをロードする方法を解説します。ここでは Triple Peaks スナップショットを [↑2.2.1, ユーザースナップショットの保存](#) セクションで保存したことを前提に解説を進めます。

### ユーザースナップショットのロード

1. **Libraries** タブで KONTAKT Factory Library / Vintage / Digital Machines をブラウズし、「Electric Grand.nk」インストールメントをロードします。
2. Instrument Header のカメラアイコンをクリックし、スナップショットビューにします。デフォルトではスナップショットは何もありません。

3. ドロップダウンメニューを開き、Triple Peaks スナップショットを選択します。



スナップショットメニューです。

→ Triple Peaks スナップショットがロードされます。



更にスナップショットをロードしていない状態で Electric Grand インストゥルメントをロードした状態で Next Button を押すことで同じ結果を得ることができます。

## ファクトリースナップショットのロード

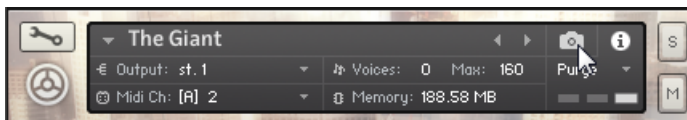
ファクトリースナップショットは KOMLETEE ライブラリのみにあります。 ですからこの解説は KOMLETEE 9 ユーザーのみに向けて解説します。



Service Center が提示する KOMLETEE ライブラリの全アップデートを実行し、ファクトリースナップショットにアクセス可能な状態にしてください。

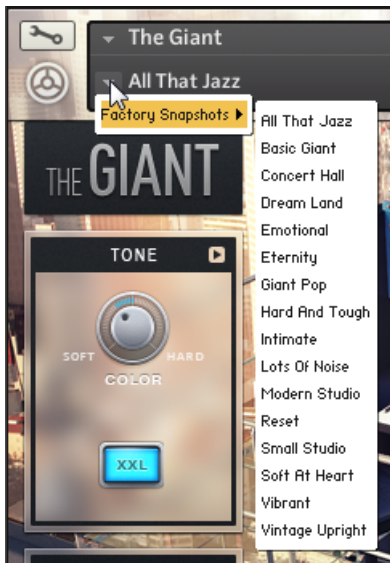
いくつかの KOMLETEE ライブラリは一見小規模に見え、例えば THE GIANT には 2 つのみのインストゥルメントがあるだけです ('The Giant .nki', 'The Giant - Cinematic.nki')。 ですがインストゥルメントのユーザーインターフェイスを用いて各パラメーターを調節することで一気にサウンドデザインの扉が開きます。 当社のサウンドデザイナーがこのインストゥルメントの数あるスナップショットを用意しています。 ではスナップショットのいくつかをロードして音の違いを確認してみましょう。

1. [Libraries](#) タブで The Giant.nki をロードします。 デフォルトの The Giant がロードされます。
2. Instrument Header のカメラアイコンをクリックし、スナップショットビューにします。



スナップショットビューを開きます。

3. Instrument Header 下部のドロップダウンメニューをクリックし、スナップショットメニューを開きます。



スナップショットメニューです。

4. 'Intimate' を選択します。
5. キーボードで演奏し、どんな音が確かめてください。'Intimate' スナップショットの音の印象は丸く、ホールリバーブが大きくかかっています。
6. ではスナップショット名称の左矢印をクリックしてリストの手前のスナップショットをロードします。名称は 'Hard And Tough' です。既にロードしているサウンドのサンプルを使用しているので、スナップショットが非常に素早く切り替わります。
7. では、鍵盤でその音を確認してください。'Hard And Tough' スナップショットの音は非常に明るくハードで、はっきり聞こえるレゾナンス音が特徴的です。
8. ドロップダウンメニューを開き、'Lots Of Noise' スナップショットをロードし、その音も試してください。ピアノのハンマーノイズが聞こえることでしょう。

→ ここまでで、一つのインストゥルメントから、特徴ある 3 種のサウンドを試しました。

スタジオやライブで編集したサウンドをもう一度使用したい場合は、スナップショットを活用してください。

### 2.2.3 ファイルシステムからスナップショットをロードする

KONTAKT のスナップショットファイル (.nksn) のロード方法は 2 種類あります。

- Finder / Explorer からラックにスナップショットファイルをドラッグ、ドロップする。

▪ Finder (Mac OS X) または Explorer (Windows) でファイルをダブルクリックしてロードする。  
これでスナップショットをフラッシュドライブや電子メール等を使用してスタジオ等に持ち込み、あるいは送信し、デスクトップやスタジオのコンピュータで活用することができます。

## ドラッグ アンド ドロップ

ディスクからスナップショットをロードするには、Filer / Explorer に .nksn ファイルを移動し、空のラックにロードします。KONTAKT が新規インスタンスをロードし、対応するインストゥルメントのスナップショットを再現します。

ラックで既に起動しているインストゥルメントにスナップショットをロードすると、インストゥルメント自体が切り替わり、スナップショットを再現します。

ロードしたスナップショットはデフォルトロケーションに自動的に保存されることはありません。



Next/Previous ボタンは Factory Snapshots と User Content フォルダー内のスナップショット各に移動するのみとなります。

## ダブルクリック

Finder (Mac OS X) または Windows Explorer でスナップショットファイルをダブルクリックすると、KONTAKT 内に新規インストゥルメントインスタンスを挿入します。

### 2.2.4 ユーザースナップショットの削除

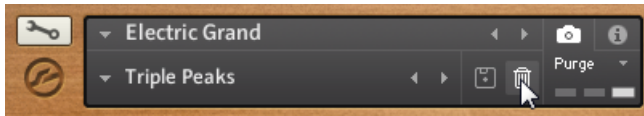
Snapshot メニュー内で似たような音がするスナップショットが重複しないようにするためにも、必要ないスナップショットを削除していくのが得策でしょう。スナップショットは各インストゥルメント単位で保存するので、KONTAKT のスナップショットを削除するには、まずそのサウンドをロードする必要があります。



ユーザースナップショットのみが削除対象となります。全 KOMplete Factory Snapshots はリード専用です。ここでの解説内容を実行するには、[↑2.2.1, ユーザースナップショットの保存](#) で解説するように、まずスナップショットを保存する必要があります。

スナップショットの削除を行いたいので、先ほど保存した Triple Peaks スナップショットを削除してみましょう。

1. Electric Grand.nki をロードします。
2. カメラアイコンをクリックしてスナップショットビューにします。
3. Triple Peaks スナップショットを開きます。
4. Instrument Header のゴミ箱アイコンをクリックします。



Delete Snapshot アイコンです。

5. 表示されるダイアログでスナップショットの削除を実行します。
  - これでハードディスクのフォルダからスナップショットファイルが削除され、スナップショットメニューからも削除されます。

## 3 KONTAKT 5.3 の各新機能について

### 3.1 Avid Audio eXtension (AAX Native 64 Bit) サポート

今回初めて KONTAKT 5.3 は AAX Native 64-bit フォーマットと AAX Native 32-bit をサポートするようになりました。これらは Pro Tools 10 (32-bit) と Pro Tools 11 (64-bit) 専用です。AAX の異なるバージョン詳細に関しては Pro Tools の資料を参照してください。



AAX Native スタンドアードのみをサポートしています。これは KONTAKT がコンピューターの CPU のみによって処理され、専用 Pro Tools|HDX DSP カードは用いないことを意味します。

### 3.2 詳細 MASCHINE 2.0 統合

KONTAKT 5.3 は Maschine 2 は完全に連動、これで MASCHINE のプラグインストリップでインストールメントのユーザーインターフェイスにアクセス、インストールメントのブラウズが可能となります。



MASCHINE に KONTAKT をロードした状態です。

### 3.3 新規エフェクト

#### 'Simple LP/HP' フィルター

KONTAKT 5.3 は 'Simple LP/HP' Multi Filter モードを搭載しています。この非常にクリーンなサウンドのフィルターで、余分な低音部の除去や耳が痛い高音部の除去を余計なレゾナンスの強調なくスムーズに行うことができます。

HP は 2-pole (12 dB/octave)、1-pole LP のスロープは 6 dB/ オクターブです。調節可能なパラメーターは 2 つです。

- **Cutoff HP:** 2.6 Hz - 26.3 kHz
- **Cutoff LP:** 2.6 Hz - 26.3 kHz

## DBD エンベロープ用新規 'Easy Mode'

Easy Mode は基本的なパーカッションインストゥルメントであればフルモードよりも簡潔に機能します。Easy Mode で DBD Envelope の **Break** と **Decay 2** パラメーターは無効となり、パラメーターは一つとなります。

- **Decay 1**: ディケイタイムはリニア 0 - 25s となります。

## 4 KONTAKT 5.2 の各新機能について

### 4.1 Feedback Compressor

コンプレッサーはシグナル内の音量の大きい部分のレベルを自動的に下げるダイナミックなツールです。この機能により、シグナルのダイナミック・レンジに影響を及ぼします。フィードバックコンプレッサーはアンプのアウトプットシグナルをスレッシュホールド値に応じて圧縮するタイプのコンプレッサーです。スレッシュホールド値に到達すると、コンプレッサーがシグナルのゲイン値を減少させます。Feedback Compressor は明るくパンチのあるサウンドに定評があるクラシックなフィードバックコンプレッサーを参考にして設計されています。



Feedback Compressor です。

### コントロール

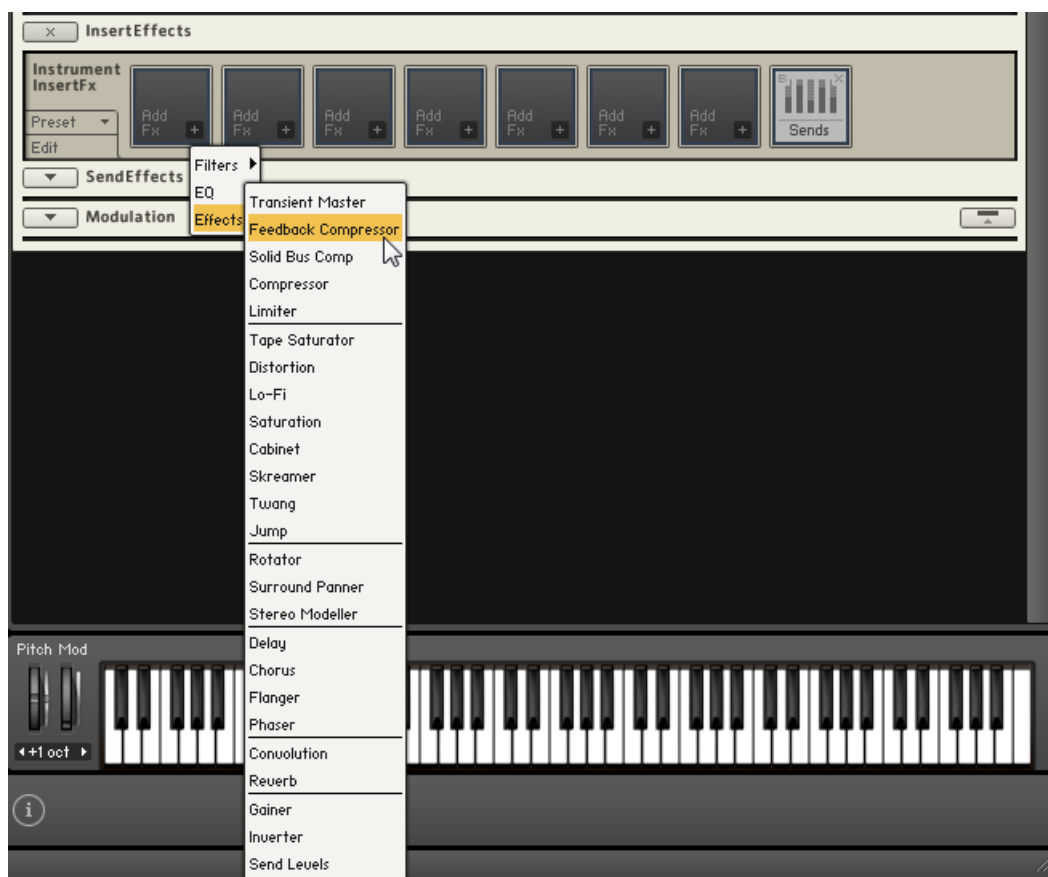
以下は Feedback Compressor のコントロール部です。

- **High Quality:** エフェクトのオーバーサンプリングの切り替えです。これにより音質は向上しますが同時に CPU 付加も高まります。
- **St.Link** (Stereo link): これがオンになっている時、コンプレッサーは左右のチャンネルに揃って動作するため、ステレオ・イメージが損なわれません。 オフの場合フィードバックコンプレッサーはデュアル・モノ・プロセッサとなり、左右のチャンネルはそれぞれ別々に処理されます。
- **Input:** インプットレベルとスレッシュホールドを同時に調節します。 このノブを時計回りに回すことでコンプレッション効果を多く得ることができます。
- **Ratio:** 圧縮率を設定します。 1:0 で圧縮効果は無く、2:0 で 2dB のシグナルは 1 dB へと圧縮されます。
- **Attack:** インプットシグナルのボリュームエンベロープのアタックをコントロールします。 このパラメーター値を上げるとパンチが加わり、値を下げるとアタックが弱まります。
- **Release:** シグナルインプットがスレッシュホールドレベルを下回ってから圧縮を終えるまでの時間を設定します。 標準的な設定値は 50 から 250 ms までです。

- **Makeup:** 圧縮されたシグナルの出力レベルをコントロールします。圧縮後の音量をここで調整します。
- **Mix:** コンプレッサーのドライ/ウェット率をコントロールします。この機能を用いてパラレルコンプレッションに似たルーティングを施すことが可能で、大きな音声を抑えずに、小さな音声を上げることが可能となります。100% で圧縮音声のみが出力され、0% で未加工のインプットシグナルを出力します。
- **Output:** モジュールのアウトプット・レベルを制御します。
- **Gain Reduction Meter:** このメーターでゲインリダクション値 (db) を表示します。

## Feedback Compressor のロード

Feedback Compressor をロードするには、**InsertEffects** モジュールの *Effects* サブメニューからエントリーを選択します。



Feedback Compressor を選択します。

## 5 KONTAKT 5.1 の各新機能について

### 5.1 古いホストプロジェクトのアップデート (プラグインの移行)



このセクションで解説するこの機能は、現時点では Mac OS X で KONTAKT AudioUnits (AU) をホストプログラムで使用する場合のみで機能します。サポートホストプログラムの最新情報はナレッジベース内のページ (<http://www.native-instruments.com/knowledge/questions/1169>) を参照してください。

KONTAKT AU プラグインキューバージョンを用いたホストソフトウェアプロジェクトを開く場合、( KONTAKT 3 または 4) これらの旧バージョンプラグインを最新バージョンの KONTAKT プラグインと差し替えることが可能となりました。ホストプロジェクトの統合に関してはナレッジベースの以下のページを参照してください。

<http://www.native-instruments.com/knowledge/questions/1169>

### 5.2 Jump エフェクト

Jump エフェクトでクラシックなブリティッシュギターアンプトーンを再現します。このエフェクトはスムーズで歌うようなリードサウンドに向いています。Jump エフェクトは各グループ、インストゥルメントレベルで使用できます。



Jump エフェクトです。

#### コントロール

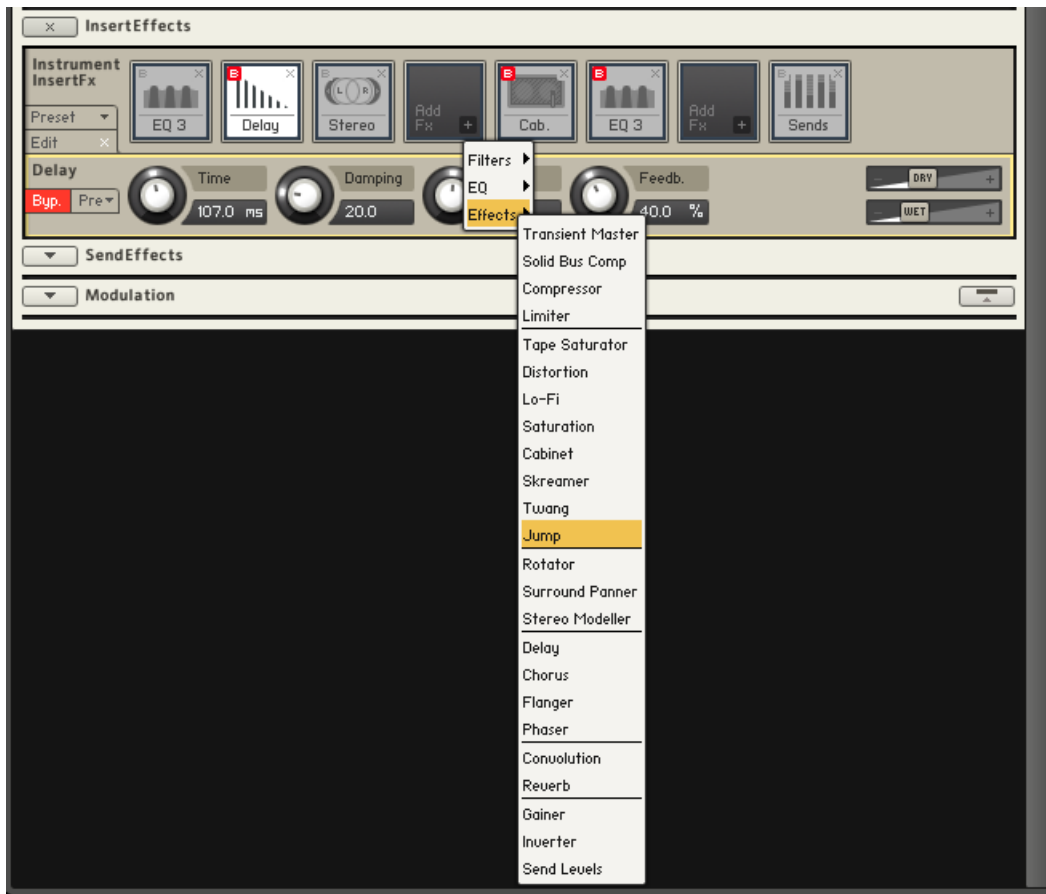
これらが Jump エフェクトのコントロールです。

- **HiGain:** プリアンプのゲインを増幅します。歪んだ音声、ざらついた音声を生成する場合には **HiGain** モードに切り替えてください。

- **Mono** このボタンを起動すると、インプットシグナルの全チャンネルが生成前にモノシグナルとしてまとめられます。インプットチャンネル総数とは関係なく、モノ、ステレオ、あるいは 5.1 シグナルをモノシグナルに加工します。  
このボタンを起動していない場合は、各チャンネルは独立して機能します。使用すると、CPU 負荷が大きくなります。
- **PreAmp**: プリアンプに追加するゲイン量を調節します。右に回すとサウンドにドライブやディストーション、さらに切れ味が加わります。
- **Master**: でアンプマスターボリュームを設定します。
- **Bass**: で音声の低域成分を調節します。
- **Mid**: で音声の中域成分を調節します。
- **Treble**: で音声の高域成分を調節します。
- **Presence**: で中高域成分をブーストします。
- **Output**: モジュールのアウトプット・レベルを調整します。

## Jump エフェクトのロード

Jump エフェクトをロードするには、**InsertEffects** モジュールの *Effects* サブメニューからエントリーを選択します。



Jump エフェクトを選択しています。

## 5.3 その他の追加内容と向上点

### 5.3.1 Twang エフェクト内のパラメーターの名称変更

Twang エフェクトのコントロールパネルにあった **Polyphonic** ボタンの名称は **Mono** となり、機能内容もこれまでとは逆となりました。 **Mono** ボタンは Jump エフェクトの同名ボタンと同様の機能です。

- **Mono** このボタンを起動すると、インプットシグナルの全チャンネルが生成前にモノシグナルとしてまとめられます。インプットチャンネル総数とは関係なく、モノ、ステレオ、あるいは 5.1 シグナルをモノシグナルに加工します。  
このボタンを起動していない場合は、各チャンネルは独立して機能します。使用すると、CPU 負荷が大きくなります。

### 5.3.2 データベースの変更

最新の KONTAKT アップデートではこれまでのバージョンの追加マニュアルには記載していない KONTAKT データベースの変更内容を含んでいます。

- KONTAKT バージョンの 5.0.0 Colors と Ratings は現在サポートしていません。ですから、KONTAKT 5 Application Reference の内容は古いものとなります。
- KONTAKT バージョン 5.0.2 では KONTAKT Database Browser から技術的な理由により User Attribute Sets を除外しています。これは User Sets が KONTAKT 5.0.2 以降のバージョンで使用できないことを意味します。  
ですから KONTAKT 5 の Application Reference の 12.4.7、「自身のアトリビュートセットの設定」の内容は古いものとなります。

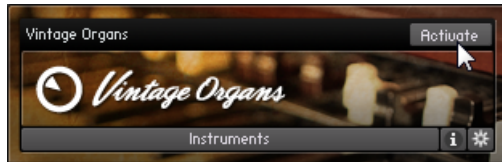
## 6 KONTAKT 5.0.2 の各新機能について

### 6.1 KONTAKT 内でのライブラリの起動

KONTAKT 5.0.2 では製品起動を KONTAKT 内で行う仕様を導入しており、これにより、Service Center を起動する必要がなくなります。ライブラリはシリアルナンバーを入力した後、直ちにに使用することが可能となり KONTAKT を再起動する必要はありません。

起動方法は簡単で既にライブラリの起動を行ったことがあるユーザーであれば容易に行うことが可能です。

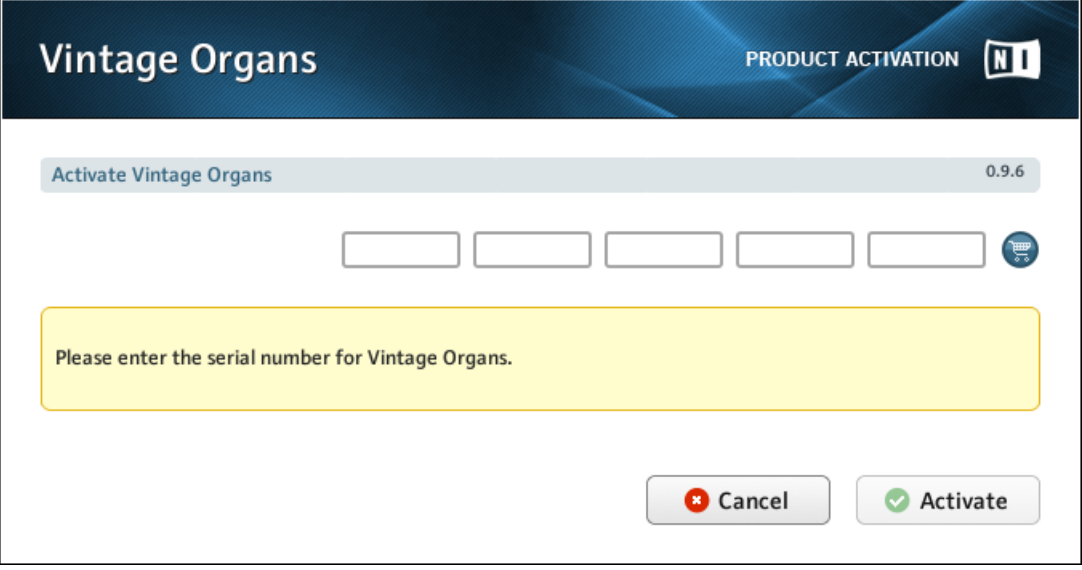
1. ライブラリをインストールしてから KONTAKT を開きます。
2. ブラウザの [Libraries](#) タブでインストールしたライブラリを探します。
3. 該当するライブラリの [Activate](#) ボタンをクリックしすると、ログイン画面が表示されます。



4. これまでに Service Center を使用したことがあり、詳細を保存したことがあれば、自動的にログインします。自動ログインしない場合は詳細を入力して [Login](#) をクリックします。

5. インターネットに接続していない場合は、次の画面が表示され、インターネットに接続するか、Service Center を使用してオフライン起動を行うように促す内容のメッセージが表示されます。

6. ログインすると、製品シリアルナンバーを入力する画面が表示されます。



Vintage Organs


PRODUCT ACTIVATION NI

Activate Vintage Organs 0.9.6

Please enter the serial number for Vintage Organs.

Cancel Activate

7. シリアルナンバーを持っていない場合はシリアルナンバー入力エリアの右にあるショッピングカートアイコンをクリックすることで Native Instruments オンラインストアに移動、ここでライブラリを購入します。
8. シリアルナンバーが認知されたら、[Activate](#) ボタンをクリックします。

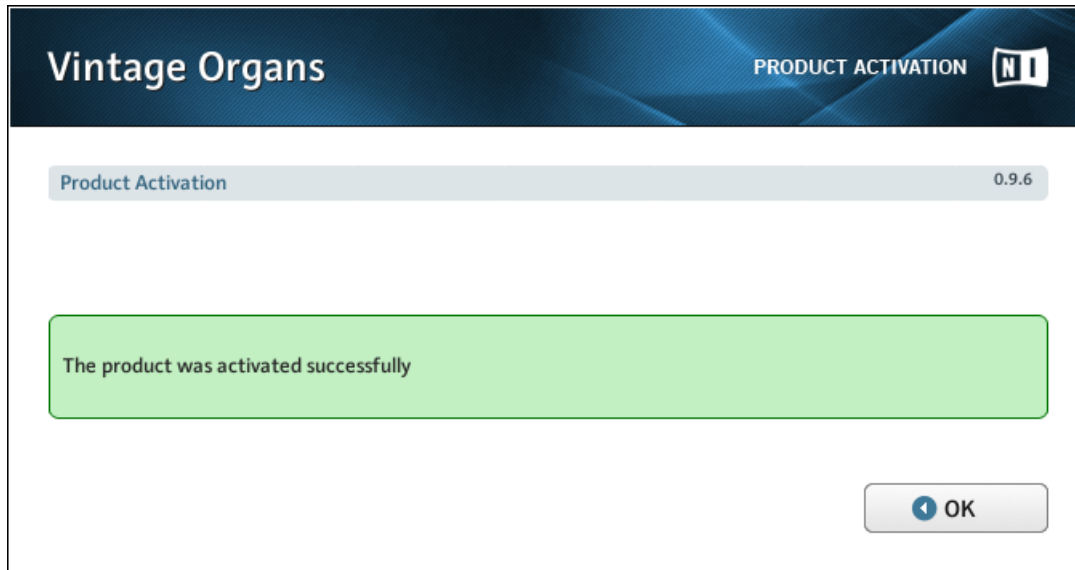


The serial number is correct.

Cancel Activate

9. オペレーションシステムが認証メッセージが表示された場合は、KONTAKT を認証、許可することでライブラリを起動します。

10. 確認画面が表示され、ライブラリの製品起動が行われたことを表示します。



11. OK をクリックしてこの画面を閉じます。

→ これでライブラリを演奏可能な状態となります。

## 6.2 拡張した Group レベルコントロール

### 6.2.1 カスタム可能な Pre/Post Amp FX スロット



新規 Group Insert FX パネルです。

以前のバージョンの KONTAKT では、Group Insert FX の Post Amp FX セクションは 2 スロットに制限されていました。KONTAKT 5.0.2 では新規コントロールを追加し、これによってエフェクトスロットで設置するプレ/ポストアンプ数を設定することが可能となりました。使用できるスロット数は 8 個までですが、これらのエフェクトスロットをアンプリファースロットの前後（プリアンプ、ポストアンプ）に自由に設置することが可能となります。

デフォルトでは Post Amp FX は 2 個設置してあり、これらは Group Insert FX の右にあり、Slots と表示してあります。



Post Amp FX の個数を編集します。

- ▶ この値を変更するには以下の各方法で行います。

数値をクリック、ドラッグします。

マウスで数値の上をさし、二つの矢印が現れたら、各矢印を任意にクリックして数値を変更します。

数値をダブルクリックして Post Amp FX の個数を変更することも可能です。

プリアンプエフェクトスロットの数はスロットの総数からこのコントロールで設定した値を差し引いた数となります。

## 6.2.2 新規アンプリファースコントロール



### 新規 Amplifier コントロール

グループのアンプリファースセクションには新しく 2 つのコントロールを追加しています。これらのコントロールは Inverter エフェクトのものと同様です。

- **Phase Invert** を起動すると、グループ内のシグナルが アンプリファーステージで反転します。
- **L/R Swap** を起動すると、シグナルのステレオチャンネルが左右逆転します。

これによってシグナルの極性やステレオを反転する為に Inverter エフェクトをエフェクトスロットに設置する必要がなくなります。

## 6.3 Time Machine Pro

Time Machine Pro モードは Kontakt 5.0.2 から大きく進歩しており、サウンドとパフォーマンスの向上のみならず、操作性も向上しています。

### 6.3.1 パフォーマンスの向上

全体的なパフォーマンスの最適化のみならず、Time Machine Pro 内部の向上が顕著です。

KONTAKT 5.0.2 では Time Machine Pro の **Speed** と **Tune** ノブの値をフルレンジ調節することが可能となっています。しかしアルゴリズム操作には限界があり、極端な設定値を使用する場合ノブの値がこの限界値を超えてしまう場合があります。この設定値が限界値を超えてしまった場合、**Speed** または **Tune** ノブは、**Tracking** ボタンを有効にしているか、無効にしているかを基準にそれぞれ動作します。

- **Tracking** を起動した場合 **Tune** が優先的に機能します。
- **Tracking** を無効にしている場合、**Speed** が優先的に機能します。

tune と speed 用設定はモジュレーション、ゾーン、スクリプトの各設定にも反応します。



Time Machine Pro はステレオファイルのみに対応しています。チャンネルが多い (サラウンド) 場合、最初の 2 チャンネルの音声のみが処理され、その他のチャンネルはミュートされます。

### 6.3.2 インターフェイスの向上



HQ Mode を起動した状態の Time Machine Pro とディスプレイの全コントロールです。

Time Machine Pro コントロールの変更内容は以下となっています。

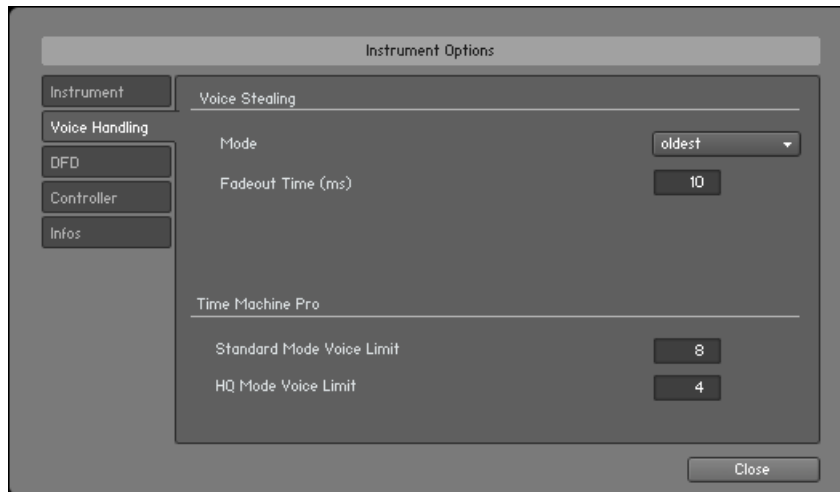
- **Pro Mode** と呼んでいた呼称を **HQ Mode**(High Quality Mode) と変更しました。
- **Legato** ボタンを追加しました。他の Time Machine モードの **Legato** ボタンと同様に機能し、このボタンを起動することで KONTAKT はサンプルをレガート演奏した場合サンプルの再生位置をサンプルの先頭に戻すことなく異なるノート間で持続します。
- **Keep Formants** ボタンを HQ Mode コントロールに追加しました。このコントロールを起動すると、KONTAKT フォルマントを保ったままピッチシフトし、より自然なサウンドとなります。

- **Env.Fact.** (Envelope Factor) ノブは **Frm.Shift** (Formant Shift) と呼ぶようになり、値をより明確に把握することができるようになりました。

### 6.3.3 Voice Handling Controls

パフォーマンスの為、Time Machine Pro には独自のボイス数設定コントロール部があります。元々この機能はグループレベルに付属していました。KONTAKT 5.0.2 ではこのボイス制限機能はインストゥルメントレベルに移動しました。

**Voice Handling** コントロールは Instrument Options ウィンドウの新規タブにあります。



新規 Voice Handling タブ

元々 **Instrument** タブにあった **Voice Stealing** コントロールは Time Machine Pro 用コントロールと共にこの新規タブに移動しました。

**Voice Stealing** コントロールはこれまでと同じように機能しますが、これらの設定は Time Machine Pro を使用するグループ内で機能するものとして認識されます。

このエリアで **Standard Mode Voice Limit**(**HQ Mode** を無効にした場合のボイス数) と、**HQ Mode Voice Limit** (**HQ Mode** を有効にした場合のボイス数) の設定も行います。



Time Machine Pro を使用している KONTAKT 5.0.2 以前のバッチをロードする場合、このグループボイスリミット設定は無視され、instrument level Voice Handling の設定によって上書きされます。